

基地撤去へ決意新た 不屈館開館から1年

沖縄の大衆運動をけん引した故・瀬長亀次郎さんの関連資料を収蔵する「不屈館」(那覇市若狭)が1日、開館から1年を迎えた。瀬長さんの次女の内村千尋館長は「戦後史を多くの人に知ってもらい、基地問題解決に貢献したい」と同館のさらなる発展を誓う。

治活動をパネルで紹介し、収集した新聞記事の切り抜きや日記などを展示、戦後沖縄が歩んだ歴史を振り返ることが出来る。同館によると、これまでに6千人近くが入場した。

開館1周年を記念し1日、3日間の日程で上映会やトークショーが開幕した。1日に参加した瀬長さ



開館から1年を迎えたことを記念し、不屈館で開かれたトークショー＝1日午後、那覇市若狭

んの元秘書、佐次田勉さん(73)は「(瀬長さんの)正義を貫く闘いが米国の帝国主義を暴き、祖国復帰運動ののろしとなった」と指摘。これらの活動がオスプ

レイ配備反対など現在の基地闘争にも引き継がれているとの見解を示した。

開館1周年を迎え、内村館長は「基地撤去を実現できなかった父の遺志を継

ぎ、基地反対など島ぐるみの運動に役立てるような資料や情報を発信していきたい」と決意を新たにしていた。問い合わせは不屈館☎098(943)8374。

思決定が遅く、避難先を河川堤防付近としたことが事故の直接的要因」との内容。背景として、学校や行政の防災態勢が不十分で教職員の危機意識が高まらなかったことを挙げた一方、当日